

S.F.A.通信 第15号

(和歌山県漁業士連絡協議会報)

平成22年3月

発行：和歌山県漁業士連絡協議会

S.F.A. (=Senior Fishery Adviser、漁業士)

◆漁業士

将来の中核的漁業者として期待される漁業者や、優れた漁業経営を行い指導的役割を果たしている漁業者をそれぞれ「青年漁業士」、「指導漁業士」として和歌山県知事が認定しています。

現在は113名の漁業士が地域漁業の担い手として活躍しています。

和歌山県漁業士連絡協議会

会員相互の連絡調整や交流資質向上を目的に、平成元年に発足しました。

年1回の総会その他、他府県との交流会の開催、魚食普及活動、部会での活動などを通じて、お互いの情報交換や親睦を図っています。

～漁業士認定～

平成22年2月17日(水)に、アバローム紀の国において、「農業士・グリーンワーカー・漁業士認定式」が行われ、以下の9名の方が漁業士に認定されました。

青年漁業士

西出恵悟さん(湯浅湾漁協)
西出一也さん(湯浅湾漁協)
渡邊剛士さん(比井崎漁協)
左東和也さん(和歌山南漁協)
柴田晃司さん(和歌山南漁協)

指導漁業士

幸前禎泰さん(加太漁協)
中島教光さん(湯浅湾漁協)
西中昭治さん(紀州日高漁協)
深田武司さん(和歌山南漁協)



認定証の授与



記念撮影

～通常総会～

平成21年7月18日（土）和歌山市のJAビルにおいて、平成21年度通常総会及び親睦会を開催し、県下各地域から多くの漁業士の出席がありました。本年度は役員改選の年となっており、新執行部が選出されました。

会 長	塩谷 昇	（紀州日高漁協）
副会長	榎本睦也	（和歌山南漁協）
副会長	東 里子	（紀州日高漁協）
監 事	山崎 晃	（和歌山東漁協）
会 計	山本広巳	（有田箕島漁協）
理 事	松村よう子	（紀州日高漁協）
理 事	城山豊司	（海南市漁協）
理 事	松村英昭	（比井崎漁協）



～兵庫・徳島・和歌山3県漁業士交流会～

毎年開催されている3県交流会は、平成21年9月8日～9日にかけて、兵庫県淡路島で開催されました。初日は淡路市役所において、3県の漁業士がそれぞれ活動報告を行い、意見交換を行いました。また、2日目は淡路市立山田小学校を訪れ、魚食普及活動の一環として全校生徒39名と一緒に、兵庫県明石名産「干しダコ」作りに挑戦しました。兵庫県漁連さんが活きたタコを提供してくれたので、タコを締めるところから始まり、内臓や軟骨の取りのぞき、最後は竹串に固定するという一連の作業を子供たちとともに楽しく実施することができました。そのあと、体育館で「たこめし」や「ちりめん」を食べながら交流会を行いました。

平成22年度の開催地は、和歌山県の予定です。



～瀬戸内ブロック漁業士研修会～

平成21年8月27日～28日、岡山市において瀬戸内海関係9県の漁業士が参加する研修会が開催されました。初日は各県漁業士の日頃の活動を報告し、意見交換を行いました。他県漁業士から「漁業士としてやるべきことはなにか」という問いかけがあり、共通の課題を抱えていると感じました。

2日目は横山製網株式会社及びナカシマプロペラ株式会社を訪問し、漁網や船舶のスクリューの製造過程を見学する貴重な体験をすることができました。



～漁民の森づくり活動～

今年度は、岩出市根来山（平成18年植樹）と日高川町船津（平成20年植樹）の2箇所では、草刈り作業を行いました。根来山では、地元NPOなど計45名の参加があり、下草刈りと漁民の森へ続く小道の整備を実施しました。また、日高川町では、中津村森林組合の協力のもと日高地方の漁協青年部なども応援してくれ計35名の参加があり、身の丈ほどの雑草が生えていましたが、苗に日光が当たるよう苦労しながらもしっかりと刈り取っていきました。

参加された漁業士会の皆様、大変ご苦労さまでした。



～船びき部会～

部会長：中村拓也・書記：小林靖志
 開催日：平成22年1月20日
 場 所：和歌山県農林水産総合技術センター
 水産試験場（串本町）

水産試験場で行っているシラスの研究・調査の状況を聞きに水産試験場に行きました。特に春シラス漁期の調査及び来遊予測について研究員と意見交換を行いました。



～一本釣り部会～

部会長：山本友次・書記：前田恵一
 開催日：平成21年8月21日
 場 所：日高振興局（御坊市）

研修会として水産試験場から紀伊水道周辺のアジ・サバ、タチウオの資源状況の説明を受けました。その後、部会の取り組みや視察計画などについて話し合いました。



～まき網部会～

部会長：松村和映・書記：松村英映
 開催日：平成22年1月30～31日
 場 所：北さつま漁協他（鹿児島県）

まき網で漁獲したアジ・サバの畜養や養殖を行っている鹿児島県の北さつま漁協及び(株)タカスイを訪問しました。この研修を、ゴマサバの単価アップの取り組みの参考にしたいと思います。



～東牟婁部会～

部会長：東 信義・書記：塩地 誠
 開催日：平成21年12月4～5日
 場 所：京都府漁連宮津支所他（京都府）

東牟婁地区漁村青年協議会と合同でアカアマダイのブランド化に取り組んでいる京都府漁連と伊根町漁協を訪問しました。品質と鮮度管理に努め、「丹後のぐじ」というブランドになっています。



漁師として考えること

青年漁業士 西出 恵吾

この2月に青年漁業士に認定されました湯浅湾漁業協同組合所属の西出恵吾です。

私は高校を卒業して鳶の仕事を経た後、平成4年に父の小型底びき網漁船に乗り子として乗り込んだのが漁師としての第一歩でした。以来、漁に関する知識や技術は父から少しずつ教わり、途中独立を経て18年近く小型底びき網漁業を行ってきました。

私が漁師をやりながら最近感じることは、それは末永く漁業をやっていくために「漁師として何をしなければならないか」ということです。漁獲物としてはタイやエビ類、タチウオやイカなどがありますが、海の資源の減少が問題となっている現在、今後も継続して漁師を営んでいくためにはただ魚を獲るだけではなく、種苗放流や漁獲した小型魚の再放流といった資源管理について、私たち漁師自身も積極的に取り組んでゆくことが必要だと思います。私もこれまで漁協や有田地区漁業青年協議会の活動としてクルマエビ、ノコギリガザミやオニオコゼの中間育成・種苗放流に参加した経験がありますが、最近のオニオコゼの漁獲量の増加は、そんな活動の努力が実った成果だと私は思います。

最後に、現在の水産業界を取り巻く状況は、漁獲量の減少や魚の価格の下落など、私たち漁師にとって非常に厳しいものとなっています。しかしながら、私たちの仕事は、人間の生活の根幹である「食」を支えるものであるという誇りをもって、仲間の漁師や県下全域の様々な業種の漁業士と協力しながら漁業を末永く営んでいけるよう、今後も努力してゆきたいと思います。



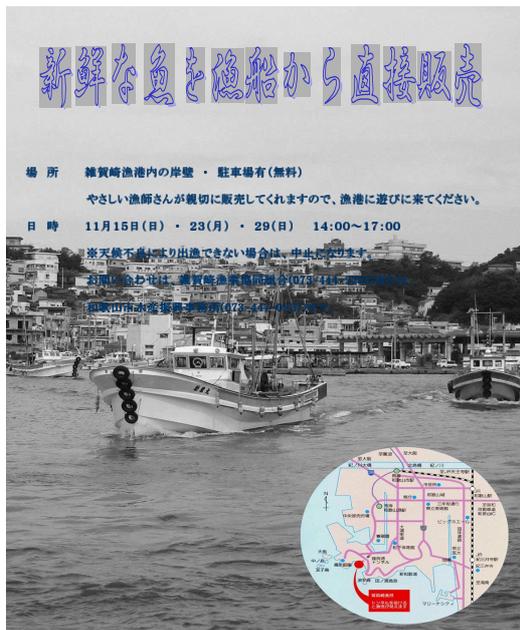
雑賀崎漁港 漁業者による漁船から“新鮮魚の直売”

海草振興局 葦澤普及指導員

“新鮮な魚介類を直接消費者へ”と雑賀崎漁業協同組合が主催、和歌山市の後援のもと、平成22年11月23日（月・祝）午後2時から午後5時まで、鮮魚直接販売を雑賀崎漁港で開催。天候にも恵まれて約3,000人のお客様で賑わいました。

当日、小型底びき網漁船約60隻が朝4時に漁し、午後2時頃から次々と漁を終えた漁船が帰港。その後、漁師さんがそのまま船上で魚を仕分けし、来ていただいた消費者の方々に獲れたての新鮮な魚介類を直接販売しました。漁船の帰港を待ちわびた買い物客が船の前に集まり、「アジアカエビ10尾!」「アカシタビラメ3尾!」と次々に新鮮な魚介類を買い求める声が飛び交いました。

午後3時までに帰港できた漁船では、当日漁獲物の7割以上が売れ、中には完売した漁船もありました。水揚げされた主な魚介類は、アジアカエビ、コウイカ、アカシタビラメ、カマス、マダイ、ウボゼ等でした。



イベント開催用のチラシ



漁船の入港を待つ人々



魚介類を買い求める人々

那智勝浦いせえび祭りについて

東牟婁振興局 向野普及指導員

「第1回那智勝浦いせえび祭り」が平成21年10月31日、那智勝浦町水産振興会主催で開催されました。那智勝浦町は県内でも1、2を争うイセエビ水揚げ量を誇り、マグロと並ぶ那智勝浦町の「新たな食」として広くPRするために、今年度初めて企画されました。

町内の2漁協、2支所によるイセエビの直売や、女性漁業士の北郡千満子さんをはじめとした勝浦漁協女性部によるイセエビ汁の無料配布などが行われました。会場の勝浦漁協魚市場はイセエビ汁や料理を求める多くの人でにぎわい、直売用のイセエビ400kgがあっという間に完売するなど大盛況でした。

いせえび祭りは今後も継続して実施して開催される予定で、『那智勝浦産イセエビ』の知名度向上と消費拡大に取り組んでいくとのことです。

イセエビ汁に並ぶ大勢の客



イセエビ汁の配布



イセエビの直売

お問い合わせ先

県庁水産振興課	073-441-3007	丸畑主査
海草振興局産業総務課	073-441-3372	葦澤普及指導員
有田振興局産業総務課	0737-64-1286	南普及指導員
日高振興局産業総務課	0738-24-2946	田中普及指導員
西牟婁振興局産業総務課	0739-26-7910	山内普及指導員
東牟婁振興局産業総務課	0735-21-9604	横濱普及指導員

